



《循環器病テクニカルノート》

虚血性心疾患

—臨床を上手に行うための「頭と実地」のテクニック—

七里 守 著

●A5変形 頁288 2017年7月

定価：本体5,000円＋税

[ISBN 978-4-89592-887-8]MEDSi刊

循環器領域、特に虚血性心疾患の治療、マネジメントの進歩は目覚ましい。著者である七里守氏と小生とは核医学をはじめとした心臓画像診断、そして冠動脈インターベンションを通じてお付き合いをさせていただいているが、七里氏は私が知る限り、進歩し続ける循環器医療のなかにあって最もバランスのとれた循環器内科専門医、インターベンション治療医といっても過言ではない。序文にあるように、七里氏の医師としてのキャリアは、優れた師による指導とともにベッドサイドで形成された。本書には、七里氏が臨床の現場で多くの患者を通じて遭遇し、解決してきた問題点や重要なポイントが見事に整理されている。若い循環器を志す医師が臨床の現場で患者を管理治療する際に重要なポイントとテクニックを、これほどまでにわかりやすく解説した書籍を小生はみたことがない。

他の本にない素晴らしさを章別に述べる。

①Part 1「診療の基本」 虚血性心疾患の基本知識、疫学、病態生理を必要最小限に整理、生理検査の基本、各種画像検査、カテーテル検査の重要性、利点、ピットフォールをわかりやすく解説している。古いが重要な情報、最新の知っておくべき情報が短いセンテンスでわかりやすく述べられている。

②Part 2「急性期診療のテクニック」 この項はさらに

興味深い。「事件は現場で起きている」、これは刑事事件のみでなく、医療現場でも同様だ。この章では救急外来、循環器外来、心臓カテーテル検査室、そしてCCUと、臨床の現場で何を考え、まず何をすべきかを明快に示している。最新の知識と実践的なテクニックの両者が、バランスよくちりばめられている。この章を熟読すれば、急性期診療で行うべきことが明確に見えてくる。たとえばPCPSの項では、管理、離脱方法など、著者の経験と文献的考察から導き出された、成書ではあまりお目にかかれない内容がわかりやすく解説されている。

③Part 3「慢性期診療と長期管理のテクニック」 虚血性心疾患の予後改善に慢性期診療が果たす役割は大きい。リスクファクターのコントロール、心臓リハビリテーションの重要性を述べるにとどまらず、逆紹介の際の指示と患者教育など、新しい視点がふんだんにちりばめられている。

本書は、臨床の第一線で働き学ぶ後期研修医が実践的な知識と“技術”を手に入れられるように企画された、七里氏の分身ともいえる愛情がこもったテクニカルノートである。多くの先生方がベッドサイドでこの本を活用して、よりよい医師をめざすことを願う。